

ちむ美らさ

第120号

発行: 北部農林水産振興センター
農業改良普及課

住所: 沖縄県名護市大南1-13-11

電話: 0980-52-2752

FAX: 0980-51-1013



北部地区の農業振興及び農村の活性化を目指して

北部地域は、県農業算出額の31.8%を占める県下最大の農業振興地域であり、農業生産に加え、県土の保全、地域社会の活性化等を担っています。新規就農者・担い手の育成確保及び産地の育成強化への対応等、緊急かつ重要課題が多岐に渡っています。このような課題の多様化、高度化に伴い研究機関、市町村、農業団体等と連携して、課題と対象の重点化を図りつつ、直接農業者に接して、農業者の技術や経営能力の向上を図り、拠点産地の育成、これを担う優れた農業者の育成確保を目指して普及活動を展開していきます。

具体的には、下記の4つの活動方針を柱に、直接農業者に接して、技術・経営支援などを重点的に展開してまいります。

農業改良普及課
課長 上地 暢

1. 担い手の育成・確保と経営力の強化

新規就農者や認定農業者の技術・経営改善、農業青年クラブや農業士等組織活動の充実強化、女性農業者の経営参画促進などの取り組みを支援します。

2. おきなわブランドの産地育成と生産体制の支援

亜熱帯気候等の本県の優位性を活かし、高品質で安全・安心な農産物を消費者や市場に定時、定量、定品質で供給することにより、おきなわブランドの確立と産地形成を支援します。

3. 環境に配慮した持続可能な農業生産

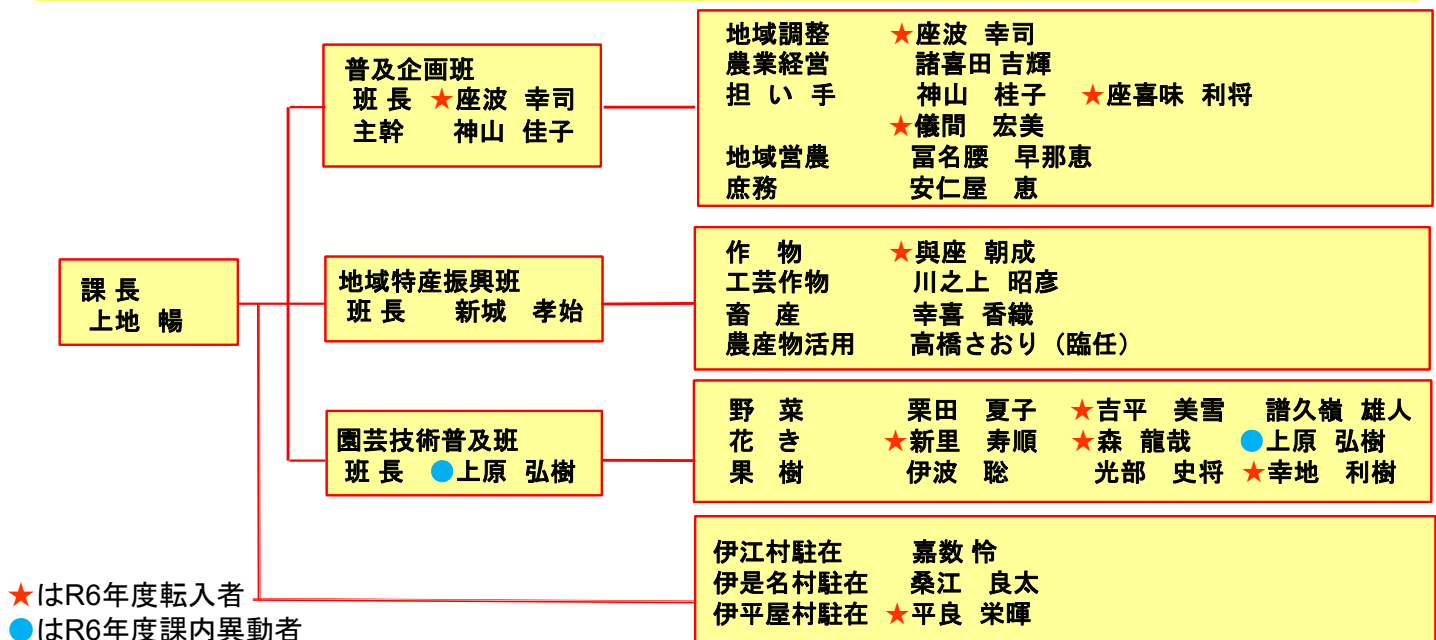
農業の持続的な生産活動のため、適正施肥技術、減農薬・減化学肥料栽培等の環境負荷の低減技術推進を通して、エコファーマー、特別栽培農産物認証支援やGAPを推進します。

4. 魅力と活力ある農村の振興

農村の地域づくりを推進する農業者や活動組織等の地域リーダーの育成・確保を推進するとともに、産地育成に適した農業振興による地域の活性化を図っていきます。

これら方針の推進にあたっては、生産農家をはじめ、市町村、JAなどの関係機関・団体と密接に連携し取り組む所存でありますので、関係者の皆さまには今後とも普及事業へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。
(北部・農業改良普及課長 上地暢)

令和6年度 北部農林水産振興センター 農業改良普及課体制



長期どりゴーヤーにおける天敵利用栽培について紹介します。

北部地域でも、近年天敵を利用した施設野菜栽培が広がっていますが、今回は、宮古普及課が調査したゴーヤーでの「スワルスキーカブリダニ」の活用事例を紹介します。



(天敵)
スワルスキー
カブリダニ
*登録農薬です

【農薬の名称】
スワルスキー
スワルスキープラス
システムスワルクン
スワマイト等



ミナミキイロアザミウマ
と被害葉・果(上)



タバココナジラミ(上:成虫、下:幼虫)
と右:被害状況(すす症状)

一部写真:
「農作物病害虫診断ハンドブック」
増補版(沖縄県植物防疫協会)より

★スワルスキーカブリダニ利用による効果

○ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ類、チャノホコリ
ダニを捕食し生息数を抑制する。

○その結果、殺虫剤散布回数が軽減される。

*アブラムシ、ハダニ等の防除は必要です。

【慣行区】22回 → 【カブリダニ利用区】10回

*チョウ目殺虫剤(BT剤等)、殺菌剤防除回数は除いた回数。

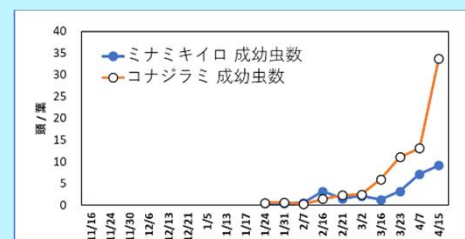
○栽培期間の延長【慣行区】10/7定植、5/2終了
(アザミウマ、コナジラミ類の増加により)

【カブリダニ利用区】10/15定植、6/30終了

*11/9 スワルスキーカブリダニ放飼

○品質の向上(果実被害低減)

アザミウマ、コナジラミ類、カブリダニの 1葉あたりの頭数の推移のグラフ



約50日
出荷期間
延長

慣行区



スワルスキーカブリダニ利用区

★利用のポイント

○スワルスキーカブリダニをハウスに導入する前に、化学農薬を用い害虫の密度を抑えておく。

例) 定植時の粒剤: アドマイヤー1粒剤

殺虫剤散布: モスピラン顆粒水溶剤(導入2週間前)、アフーム乳剤(導入1週間前)等

*カブリダニ(天敵農薬)は注文してから届くまでに日数がかかりますので、計画的に導入しましょう。

農薬は、登録内容を必ず確認してから使用してください。長期に天敵に影響する農薬は使用しない。

○導入後は殺虫剤、殺菌剤ともスワルスキーカブリダニに影響の少ない農薬を使用する。

○スワルスキーカブリダニの費用は約4万円/10aとなります。費用対効果を考慮しましょう。

経費の面では長期どり向きといえるでしょう。施肥管理等を適切に行い長期どりを目指しましょう。

(担当: 栗田)

5、6月は果実品質の向上に努めましょう！

・5～8月は気温が高く、マンゴーの日焼け果のリスクが高まります。
果実の日焼け防止、病虫害からの保護を目的に袋がけを行いましょ
う。



マンゴーの日焼け果

日焼け果は気温が上がる午後、梅雨明けの極端な高温(30℃以上)、高湿度・無風などの条件で発生しやすくなります。

対策として、袋がけ、遮光ネットの設置、ハウス内の換気、こまめなかん水を実施しましょう。

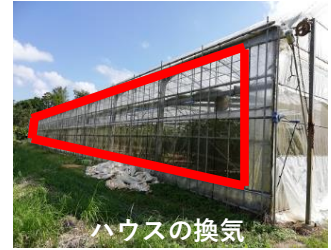
<日焼け果防止の対策事例>



遮光ネット（内張）



果実の袋がけ



ハウスの換気

袋がけにより、果実表面温度の上昇を抑え、日焼け果の発生を防止することが期待できる

(担当:幸地)

柑橘の立枯れ要因になる害虫をしっかり防除しましょう

※3月から発生が確認されています！

(1) ゴマダラカミキリ類



被害

①成虫が樹皮をかじる



②幼虫が幹や根を食い荒らす



対策

①捕殺（早朝に樹をゆすって落ちてきた虫を殺すのも有効）

②成虫の発生数が多くなってきたら登録農薬を散布する

③木くずが噴出していたら中に幼虫がいるので、スプレータイプの登録農薬を注入する

(2) アレスミカンナガタマムシ



被害

①成虫が葉を食害する



②幼虫が樹皮下を食い荒らす



対策

アレスミカンナガタマムシに対する登録農薬はない。ゴマダラカミキリとほとんど同時期に発生するため、ゴマダラカミキリとの同時防除に努める。

(担当:光部)